



利
門歸
卷

五老井 翼

東京市造區大久保
餘丁町百拾號
坪内雄藏

歷代滑稽傳

明治二十六年十一月五日

平井非謬の始と伴葉謁事伴葉尊秀の源流のよりとみて

阿那うきーにえやうまーひ女小りひぬ

男神

アナウキーにえやうまーひ男ト連及

女神

山車段々口傳

一俳諧の運歎ハヨヒ本式運系百韵開之多文臺狂角とも

立志亦越はさうをも囁空が日花が數もさく我伊いひが

ちうてのえびゆうと其後百韵一卷一座千匁あと書

付傳了のハ伴野守武の江戸始已今世ト守出

坪内雄藏

氏寄贈

千匁とて是河^{ナガ}舉々に秀文九年時雨降比とあれも大神

年教百年一筆^{ナカ}筆^シ及^ス

一伴勢の守武ハ神職の人也能護^{ナカ}長トモ末世^{シテ}祖^{シテ}神^{シテ}

干乃卷政

翁^{シテ}やかろくしくも神^{シテ}のま

青柳^{シロヤシ}の眉^ヒかく岸^{シマ}おり^リり^クな

名^{シテ}て^{シテ}や柳^{シロヤシ}霄^{シマツキ}の月

灌^{シムシム}す^{シム}はち^{シム}の声

うも虫^{シムシム}を^{シムシム}縄^{シムシム}や^{シムシム}

えよわ^{シテ}のちこ^{シテ}り^{シテ}ゆ^{シテ}つ^{シテ}

升^{シテ}も^{シテ}さ^{シテ}き^{シテ}れ^{シテ}あ^{シテ}ハ^{シテ}膝^{シテ}の^{シテ}し

七夜^{シナフ}と^{シテ}ふ^{シテ}今^{シテ}の事^{シテ}も^{シテ}別

お^{シテ}お^{シテ}ち^{シテ}日^{シテ}お^{シテ}加^{シテ}る^{シテ}程^{シテ}も^{シテ}す

き^{シテ}お^{シテ}見^{シテ}お^{シテ}其^{シテ}の^{シテ}タ^{シテ}くれ

「^{シテ}の^{シテ}所^{シテ}や^{シテ}め^{シテ}つ^{シテ}き^{シテ}を^{シテ}き^{シテ}て^{シテ}ゆ^{シテ}」

凡^{シテ}多^シ大^{シテ}刀^{シテ}の^{シテ}勢^{シテ}あ^{シテ}く^{シテ}二^{シテ}三^{シテ}

ほ^{シテ}が^{シテ}あ^{シテ}ん^{シテ}と^{シテ}や^{シテ}く

其^{シテ}の^{シテ}前^{シテ}の^{シテ}囃^{シテ}弄^{シテ}弄^{シテ}の^{シテ}艺^{シテ}さ^{シテ}く^{シテ}も^{シテ}形^{シテ}

一山旅せ宗鑑はまの御殊にて入通しの名へ連歌のまへ能出
すて多納程冊がかし後御詣師とがて方翁殿裏を櫻を

天神寺梅子廟へある花もなり

手をついてお申さるに取

月子柄をすくねばゆき圓式

まわ野川そんぎりやせめりく

まづほくくし傍を我看る

日本れりのゝロの廣々とよ

大庭をこかへてや否めりく

きりの山をこゆる高人

ま立とふまくつうてツル

クにて

一任物が山田の望一、首へて古き俳諧の名あり大い祐守或宗鑑

をほあふ

天神寺御詣師

梅子廟はあらの桜や北郷

ぬるくひもの跡を走る

去るるおと舞ふ高柳と

月小竹テモ拂ふ高柳と

初日の吹きくみあす古すざれ

一弓の松永日、眞傳を人ハ逍遙軒と号ミ又うづク長頸唐
と名父永禪の道をつき連みを好ミテ学ム長一九條五山
公の勇辯を傳極至後俳諧師と亦世々廣め一人あらず有
俳諧師筆、并櫻集ち不し。年百三十餘にて死を井筒也
故庄主傍け人ヨツフ眞傳命して三ツ物所ヨリも

噪アリば見テニせむや押蟻

伴竹

ノク和ち村國筆のことぢ哉

伴竹
涼そのかとゆアシヨモヤ便安の間

一にぎアリテタ立の雪

かく様でち鶴井トと神吟

附ウ

一日晴れ東の日一筆

あ白な雪を絃尾の鷹

馬黒と萌一野の草

新增大鏡附子

碁盤の上ト車を走フタリ

嘗て黒ニヨリトクル作リ物

宗鑑

眞傳が日付タリサハ作り物と名字入函カドケテ是ハ同
意する。此作者多種の手を承認すモノトキニ。——甚而
連歌のもの狂言なれば、噂付印付もかまひ。二句よど

よみよしてあやふと見たりけり

あづかせうり雪のあかる

まち移わ仰がる産のつくりわとふ

貞徳

血もりやす精汎の池

某日より汗をかきつむ

富龜

身使が日ひやすする暑き心なれば今ハ同鳥ノ

旅の底をかくる業事

一雛を立圃ハ野々平ニ轉使シテに入りて樺墨教まリ

出を能す京童と云名所記自東ニ立圃筑翁花々草の作者益久追善九百韵の独叶よ

卷頭

雪と雪一跡のさや所附印來

卷頭

手向ゆる花や九品の津土絆

喜の日寺へおのろえや

まちねの塵も霞もむな様く

一ほの松江日重輕ハ修維舟と号す毛吹草の作者樺集
所あと阿詩林の姓あて長生——て今御名めを櫻生

花より心やかこり桐の梅

もめん帆やもろこし舟も雪の筆

春柳子の字

「本詠めの」

阿蘭陀の文字より樓をみてゆ」

詠歌の

峯入や雪子起立を頭やも」

御歌更極時代

富士の雪見のつけよるす葉武

旅を仰き吸筒の跡

まりとモつてふ庭のねりよ

一弓の山車の西武ハ夏使の門人かくわ簾かくわ笠錦中袋等の

排出を横古

緒金子

持も二ぶそよや息杖の車

一弓の弓車の移盤ハ夏使の門人櫻集教あり

後ヨキと人モ詔トん嵯峨の點

ホモ千々巻所

花一車先よをくる千種哉

柳蘆
備夏

外山の雪のちの聲四度て

りぬる厂も入日移れもかまひて

一弓の守東キ、東室ハ中手ぬまい川を知古一とせ加州山中の場
主ソノや又三秀と云うのモ恥一めトル悔後一と夏使のモ
ウツ人志が往く一と終す千人モ花の車を譲リ東室と
名乗る一生富貴身短冊をうぐい買テ焼替ナリ乞ミ
世子自第稀ニ

乞ハシとはクナ花のナの山と云名を一ナ其名琵

琶一輪をやえ東路あさももまきタタタ

跡の月ハナミタニ聖の雪や富士の雪と呼へ武志子くた

リ帰里見一

いざのがれ嵯峨の點タマ噴ス都宮

碧タマ白シロ敵
晴の霞壺カツラづけ一峰の山

のほりが亭タニ霧の玉階

霧晴る軒端カマクラの圓軒カマクラ

ちめう肺カキの日ヒかば

一いもう身タタが越前敵葉の庭テのちチゆふ浦ウラと貞室マサニの人ヒト
かまくら貞室マサニ門モ人ヒト阿アまくのうち花ハナの草グサをケ貞室マサニ譲マダラる身ヒト
血脉相續マツメイシヤクの市シみなくそ花ハナの草グサをケ貞室マサニ譲マダラる絶争マツメイシヤクりなしシナシ身ヒト
情シテとりふゆる有アリす譲マダラ故シテ貞室マサニ能マサニ能マサニりゆ

水茅ミズカにいまと花ハナ宿マサニくわ

タマ白シロ敵

散花ハナち羽ヒタチ一枚羽ヒタチ明蝶

蝶ヒタチの草グサこと玉雲神タマクラの魚

いぬヒタチ簾マタタキに裏アシタカの雨レバ

附タマ

遠タマくはゆタマ今朝タマの夢タマ

道端よりまううちある馬の糞とふるておほの馬の
くやと年名をもあり

一葉叶考へはれせ村の産のちほほ生地下す何處放生
子長一もづくこか出ア松初齋あづくら後世のす道人
せず多く故ニ寺代地下す殊セリ新玉ば山の別當ニ任古
院主ロ比葉叶湖妻親子芳江戸す呂れ三男正之ニ新院
院の別當と譲る眞徳老母の門人ナリ能登子長一て天トテ船
は流を多シ能言教権を埋木を仰す乞を付櫻生
東山からりやぬすこ花の比

結句

女郎花たゞはほハの内侍哉

地毛かゞは木のちの花の御み形

殊る雪かと見ゆる白碎土

印旛町タの市方も東明く

正之

印旛

木波多降しく人宿の碎

秋毫き門もろ難や干アノ

又 宮を齋寢のみのト浅

走り持ハいく夜ほりのうす

全

葉

一畠田將監ハ俳諧に名取る人ナシ其懐のゆの產一とせ近傍

弱く弔え難やされりれバ

五月雨すよニヤキあれ善濃いすのとほぢリルルハ
のこのゑを様を透つくりとお眼を付て申上す
れぞ昇る能達多々見へたゞ

月紅とさもや相の初モミチ

尾花の風ノ仰ノ神ノ夜

月夜下う誦きと人を催一ノ

一堺の妻女江戸の玄れ傳えハ同時の作者として牡丹花の未^ミ
基の季のさりひつきうち物^{シテ}傳^ス元

あを川木の花^シ詩有

さきみよも庭の垣根の序降して

一も^ク守武宗鑑以来粧えの能達と心得

うづき末^シ初^ジと^シ吹^スや郭^ノ

タ立^シ細首中^シ方井^シ など言^シものつぐくをキ^一と

まゆ^シ（^シ名多^シ腫^ハをも東^シ料^シおき様^ハの首をす^シるあ

ぐひ一^トの卒情^ハ失^ア後^シハ粧^シすをぬるく尽^ク乞^フ能

詮理^シふ^シる

白く咲^ハや二十四の花^シの足

着之物伴達也

兼豊

如比既によひつをぬれば次の年一の歲且ハ何をかいもむ
き尽るゝのち第一の次第モまいりせむくがリ初々え結と京
附合出物を板附合を左住さとめ盡候よめ月直了又ハ未な
し附などもアラシイはきど見る目もくる

つくり裏なるかトテ照差とツク前 タト

佃河ト吉達のもごをアド(アド)ヨリヨ畠躍と雀服格
ヨモジを取リテは事無事の四ツ手附噺付能猪の付合
ハ乞子極る調をまのうのほり物詫ともてもやしるのかす

リ物詫の附名を肝要^(カヤウ)とす

一大坂宗因ハ西多とも梅翁共アリトチのち神月次連歌の
宗匠ガリしが能猪師と古國の能猪扣^{タキ}やダチモ地の豆^{タマ}
独歩を世舉^{シツフ}ミ宗匠風と稱一画白かる

詠もとて花もい每一首の骨

花見子ハ老若男女をさせると

萩^ホさけバ蝶木^{ホノ}のぼる氣をアリ

敷柱^{ナガタ}は露骨^{ヌカニ}を葉タアラ松

ハハキ砂^{ハハキ}子の庭の涼風

西ひの川 暇^{ノド}をすす月せく

つづりふづれば霧をこぼる

四川うりとりけ盆の花菖蒲

まくふとや虫のあくび

聖在りふくけ異りてハ又一々ハ

みの山梅こうのクーこの

川人西歸由平ふど其風をうけえますトリトめ跡^{アシ}をい
ヘリ後大坂諺林と号す

下霧や舟か別 あくふき所

紫四

霧の巻^{タマ}ハ古^イナキ地す^ト後代ニ此程のすりりむを^ト作^ム者有^リ一^ト是^モす^ム平^タのよ

何をふても卒^タの秋と云々などハ未^タ代不易^シしてゆく

一諺林軒 松島^ハ江戸の産ニ宗因^{ミテ}を招^キ江戸諺林と号し
トビテイ
而^{ヒテイ}祥と名付諺林十百韵^ト始^リ軒端^の独活^{アサツキ}のす非^ハ
日の変化^ヲ叶^ハす^ムは非^ハ能^シ也^ト其^ノ正^ト中^ノ事^モが^シぐれ^シ其^ノ事^モ
子^トハ又^ハ文^{アシ}が上平^トなる一字の動^カの筆情^{シテ}善^ニ美^ニせ
リ^ハ能^シ能^シ天下^一統^トて諺^シ其^ノ同^シをせぬ人^ガ

諺林十日鵠卷序

きれ^ハ文^{アシ}の諺林のホリ^ハ梅の花

梅翁

世俗眼眼をさすに

管

朝霞あむこめ烟横ハレる

雪室

やまつゝ廻るほとの山風

丘岸

詠もれハ傍隱ハシタクく春の松

正友

香薷散ハラトドケレハ雨聲ウツヅせよ

扶策

ふふく強カタマリへ三伏ミツボクの夏

立夏

並木の声ヒノホノしてるをアリか

雪室

砾トリホ波ハのさくあつき

正友

頃城ハシタクを下ハシタク草ハシタクの初ハシタクてハシタクれ切

志計

泪の闇ハシタクをくぐるをいの日

一朝

いき打ハシタクて人中見せも山桜

雪室

月ハシタクはぐやハシタク月ハシタクの下ハシタク涼

ト尺

夜ハシタクも明ハシタクむけんハシタクべき打ハシタクんハシタク良

正友

ほとびのむす——紅葉ハシタクふくわ

ト尺

花ハシタクをうんハシタクあハシタクトリうハシタク花ハシタク

正友

雪打ハシタクやもく——廻ハシタクす笠ハシタクの骨ハシタク

正友

雲ハシタクうりめ日ハシタクれとて外ハシタクの生ハシタクま

正友

上ハシタクの手ハシタク跡ハシタクの字ハシタクで栗ハシタク棗ハシタクをいす——めなむ動ハシタク上

むか世の最中は夕子かまくらをす類ハ同じ月もれとてやの言
葉ハ不破の園籬のあらかまくらこのにハ名月の發る月のま
のかまくらを赤一匁致す月子何トぞもあ并初かまくらの言葉ハ
卒賣ふ何トもとて上平ハトトノ

タ立き小馬の背の別

似東

部子ハタマヤ衣を馬の水臼

作失知

るの笛子を宇摩の山をぬけたゞる家隆の夕霜すトハの
あらかまくらがり甚多ハ能作かとぬす長さア風体の変化
日々夜くよかまく

一倍の田中省矩ハ季子吟山中ガシ後詠林十律

者初卷四

蛇ミサガ恨の蘿や花のくれとふを——ミ蛇ミサガとス
弓をとれり破筆ちり雨露巾等の集を櫻毛湯の詠林ハ大

方名矩が門弟ガリ

音韻辨

琴子正子才仲子舞月是武

さト駄やリともかく五白

林はまくら雪舟の升

木祐や帝象彦歌を吹きし

一理尼河未のうき雲

始にこの山移辭の谷とたゞ 佐々美中比う 龐山移辭と
一はけくやう

羽織より端山^{ハヤマ}花の時

常瓶

上戸指にそけぶ夕東園

尔木

燒賜継尾の就きのりさきく

雜巾の二ろ部もなまざかふある

姫血^{ハナミズキ}三千の林橘^{ハタチ}がわねし

とく一戸戸うち山の花^{ハナ}ノ

夕声^{ハシマ}や紅葉^{レバ}つかはくおき上戸

一味

喜^{ハラタケ}露添^{アシタカ}かけ小舟掉^{ハタマ}さまや

功成名^{ハナテカ}業^{カナテカ}無^{ハナテカ}授^{ハナテカ}良^{ハナテカ}

佛^{ハナモカケ}の由^{ハナモカケ}込^{ハナモカケ}も一^{ハナモカケ}ろ情^{ハナモカケ}くちく

孝^{ハナモカケ}の帝^{ハナモカケ}心^{ハナモカケ}夕^{ハナモカケ}よニイ霍^{ハナモカケ}丸^{ハナモカケ}

とニ^{ハナモカケ}ろん勧^{ハナモカケ}めをきニ^{ハナモカケ}一^{ハナモカケ}めをぬる

つみふ伍子晉^{ハナモカケ}が西血^{ハナモカケ}玉^{ハナモカケ}下れ

一^{ハナモカケ}夷^{ハナモカケ}地^{ハナモカケ}古^{ハナモカケ}政^{ハナモカケ}江^{ハナモカケ}戸^{ハナモカケ}説^{ハナモカケ}林^{ハナモカケ}よ對^{ハナモカケ}一^{ハナモカケ}海^{ハナモカケ}の勢^{ハナモカケ}草^{ハナモカケ}寺^{ハナモカケ}の名^{ハナモカケ}は戸^{ハナモカケ}躍^{ハナモカケ}とふ獨^{ハナモカケ}吟^{ハナモカケ}の百^{ハナモカケ}韵^{ハナモカケ}あり

千代の松^{ハナモカケ}かざり^{ハナモカケ}産^{ハナモカケ}の神^{ハナモカケ}々樂^{ハナモカケ}

玉さきやふ雪の白木綿

附々花前

貌類シラユラ中綱シラユラ言シラユラの

合力を花も紅葉もあすりタク

一伴勢足代弘中神職の人ニ詠林シヨウリの時上平の名可シヨウコ

郊外シヨウエイ用シヨウヨウいとがほとゝ埋シヨウモリす

蘿シロひるても甚シテさむるても甚シテ

百韻シヨウインの附味句作シヨウイ作シヨウサ因シヨウイ等シヨウドウ

一詠林シヨウリノ詠林シヨウリノ詠林シヨウリノ成平シヨウヒンを尽シヨウジン一作シヨウサをつシヨウツくナシヨウナを

此シ長シヨウ上シヨウジヤウの句ハ京シヨウキョウ江戸シヨウエト符シヨウフ節シヨウセツを合シヨウガセシヨウセあうがゆく極シヨウキヨウる等シヨウドウ

俳諧シヨウガ乱シヨウランれシヨウレを免シヨウムスてかくく憲シヨウケン字シヨウジを集シヨウジ免シヨウムス詩シヨウシをきく極シヨウキヨウる所又ハ字シヨウジ

ほすりシヨウホスリ一皇シヨウカウ小シヨウコウういハれぬ極シヨウキヨウするすアシカリ京江戸田翁芳シヨウカウハミ

あれ立シヨウタチく時詠林シヨウリの俳諧シヨウガ聞シヨウモン之シヨウシのちよシヨウチヨウ。

宿シヨウやくシヨウ否シヨウやの若者花縫シヨウモリ切

今宵シヨウのち將シヨウなシヨウ極シヨウたすれ革シヨウモち

了シヨウあた川シヨウカワハあ讀シヨウダクひうひうも暮シヨウモリ

天道シヨウドウや人道シヨウジンドウや牛道シヨウウドウや雲道シヨウウンドウや

殊シヨウみかぎシヨウきハ俳諧界シヨウガイ裡シヨウリに界シヨウメイ

教平シヨウヒン此シあん朝シヨウ敵シヨウのゆゑ

企

桜シヨウモリ意

李肥シヨウモリ

感シヨウモリ

雅計

睡シヨウ夢

蝶ヒタカブトち甲カブトを並アリて廻アリ上アリ下アリ列アリ

白溫虎

一弓の信傳ハ古同アラシキノ説林アラシキモ移アリ其後正同体の比まで長
すアリ能アリ達アリを好めアリ

白蓮花廻アラシキ山アラシキの小法師アラシキが筆アリ入アリし

物アラシキの名アラシキは蛸アラシキや故アラシキのいかのぼアリ

梓アラシキの子アラシキ廻アラシキ綿アラシキをう川アリ

桺アラシキ飾アラシキ傍アラシキ綿アラシキが御アラシキあてあり

千種アラシキのタヌヤ新アラシキ左エツ利アリ

墓アラシキ石金龍アラシキの首アラシキを七ヶアラシキ乃アラシキ

ハトを引アラシキくゆる賢人アラシキ

一江戸山素堂アラシキハ陰アラシキ光アラシキ江戸三呼アラシキの時アラシキハ信章アラシキと云アラシキ山アラシキハ百詩アラシキの
節アラシキハ素雪アラシキと云アラシキ芭蕉アラシキ翁桃青アラシキを妄アラシキ善アラシキ後アラシキ正同アラシキの体アラシキをまとひ
を芭形アラシキ御淨瑠璃アラシキ小手アラシキハ名は花アラシキ

目の前アラシキよ鶴田アラシキ鶴田アラシキの三漸アラシキ

信章

かづ尾アラシキさづも済アラシキハ有アラシキ

小ぬえアラシキ小大蛇アラシキの恨アラシキ鱗アラシキ一枚アラシキ

許多アラシキ外アラシキつき場アラシキとすアラシキしがりか

芭蕉翁桃青アラシキ伴榮アラシキの庵江戸小居アラシキ之排アラシキ諾アラシキハ喚アラシキる桃青アラシキ

二十あ仙と不伽夷を下シテ

手あ仙傳ハシタシケン

禮声ハセトコロ川カワの陽ヒル夜ヨメ

子をねシテふ鱗スズクニの其色シキカラアリ

ホ一ホ二ハシタシケン絃ハシタシケンノ音オト年房ヒツヤウ

ト牛廟ウシノミヤの花ハもニシテシテ紅レニイ

前後名をせシテ多タチ櫻シラサギ二十あ仙ハシタシケン郭カジ誘林イイリの時ヒメ俳謡ハガタ
長ナガ一日々向上ヒナガタより上ヒナガタ絳シラサギ誘林イイリを見破ヒナガタ正マサニ仲シテ見ヒナガタ神シラサギ憚ハラハラ貫ハラハラ之シテ平ハラハラ情ハラハラを探ヒナガタめシテ

乃聖ハタケの木槿ハタケを馬ハシタシケン小シテ噛ハラハラれハラハラありシテ申シテされシテナシテ下シテ舉ハラハラて

俳諧中粵ハタケの開祖正圓ハタケの翁ハシタシケンと初ハタケ仰ハラハラ天下ハタケの門人ハタケ教千人ハタケの
うち惟ハタケ正圓ハタケの仰ハラハラを得ハラハラるもの少ハラハラし初懷ハタケ細ハラハラの近枝鳳嵐ハタケ萬

某角ハタケ嵐雪ハタケ曾良ハタケ等江戸ハタケ丘ハラハラ隨ハラハラ仕ハラハラ至ハラハラ

歎ハラハラよせまハラハラる村松ハタケの声ハラハラ

又ハタケ有ハラハラぬ刑ハラハラお村ハタケ鳥帽ハタケ子ハラハラ着ハラハラ

又ハタケ輪ハラハラり下シテく草葉ハタケの花ハラハラ

某ハタケのユ夫ハタケ二日ハラハラとちハラハラる日ハラハラを明ハラハラ

某ハタケ故ハタケ立ハラハラタ道ハラハラの紀ハタケを草枕ハタケとも聖ハタケすシテしの紀

ひ歩ハラハラき方ハタケは千形ハラハラ白妻ハタケ西三人ハラハラ仰ハラハラてあれハラハラ

辛夷の桜ハ花^{アラ}瞬^{スル}時のみ名古屋にて野
水荷^{アラ}此の杜多^シ日の俳諧を極し次の春の日打
つき曠^{アラ}野等のもの勧も圓^{スル}伴多^シの日東の日ハ初懷詔
此^ノ時ハ俳諧や^ハか^リてゆかる

さく^リお^カ文字同^シある

ひうめ^リき庵^{ヒサレ}の木葉庵

秘^ヒ苑^{アリ}する子^ハ瘦^ミからなり

大垣如行^{アラ}荆口等の門人招^{スル}仰^テ移^{スル}理^モしの紀行^ス
時^ニ其後^ハわくの細道^{アリ}大垣^{アラ}伊勢^{スル}近^シがみ^{スル}別^ルとて

蛇^{ヘビ}の二見^ハわかれり^ハ秋^モ

又江戸^{アラ}諸門人^ハ正風^{アラ}の辞^{スル}勧^{スル}も理^モしの紀行^ス
未^シ却^ハ凡^ハ北等^を生^スえ

初時雨^ハ棲^モ小蓑^をか^リげ^ル

と吟^{ハシメ}して猿^のを起^ス

さるこのふ

とぬく^ハ當^ハアリ^ムあ^リを^ス

ヌ

惊^ハせの果^ハち^ム狂^ハ小^ハ所^ス

大^ハ櫻^にの^ハれハ^ムま^ム草^の寺^ス

時^多三^ハ歌^ハ啼^ムま^ムな^ム

癪骨のあく ~~逃~~^起走る力あき

稻のまよ正の力あき 同

弁心のほ一免よ起る駿鹿山

膳所、曲翼平正秀の珍硬等を引導くひとこのもいり有
大うへ趣き猿蓑み等。——其後江戸よ西イ情芭蕉庵をぬぐ
うびもすふ許方け時にゆえや珍硬江戸よ未くはゆ集の能造を
極す

季子の桃灯ちめす朝覲

ゆきかうる星川の桜

愚老が伽藍四五年の後ハ三船ヶ様ハ申されりくま考桃
隣ハ隨仕一木江戸よ下り桃隣ハ江戸よ下りま考ハ村山象厚
の旅ナ御き葛の松あを櫻を聖坂利牛乳をせうのか
て炭俵も素身

炭俵

量をく見えを二十八日

ひとふきを殊車のちゆり也

泊實の七カセよりをふとうれ

跡よけあるキヤ石こう

家日ぶりて起る運坂

洞カもせぬ鉢沿カニのミセの店カシトし

又江戸にて保生沾團スを勧め縹猿蓑スを手附スして併葉山海ス

馬鹿ハカル空カニ而降カニる押カニ哉

門脣クセ麻マの癖クセを走カーか和カリ

智チが走カてはうともせばよ也詣

中カニの日カニの波カニの古カニ左右

朝日カニの日カニハどこへやカニ振カニ翁カニれ

ヌひと羽カニ綾カニがうせてゐる

見く再カニす紀三井カニの花カニの喫カニから

荷持カニひたりに上カニと下カニ來カニき日カニ

こち圓カニの又西カニすカニ北カニすカニ

かの平カニに脉カニを走カニりやカニる

松圓鉢別カニ別庄カニあと云能蓮カニ阿^レち概縹猿蓑カニ同じまい

ウカニハ^レきゆのカニの流カニを知カニくよせよとひカニ

別庄別庄カニ五川カニがあればある女房

け際カニモ利カニ上カニば^レうにひひ

ヌまんぬと今朝カニハ鞆カニを走カニせす

ヨト来カニ多カニり人カニ少カニ少カニふ

多一ふ一曰つゝく借まよ

番薯汲白日隣 まよす

コトクム

大坂珍碑を助けえ疏七ばの十日十二日病疾をうりつぬ
難波の旅店みて要化を體を義仲寺モ葬る僧大草惟
然^{前号}尼智月^元州^が母園^ナ醫の一有^が書^あなり^ハ猿蓑
の^じに^シ門^リ方^坂道^{前号}外^はよ^て見^ゆ近化の時^と道^ミ
羅^ト舟^心切^シ音^病を伴^葉門^人ハ故^々なれ^ハ其^敷かし
加^葉の北^極ハ^わくの細道^のこの^み山^次山^ノ中^の場^{まで}見^ゆ
リ^カ子^モ早^よよ^て急^きけ^シの道^を尽^せ名^古の^ア露^ミ
川^ノ東^オ下^向の時^やよ^てゆ^ゑ中^の浪^化ハ^達城^の落^ス
柿^舍よ^て參^幸は^リは東^の季^子田^も落^柿舍^よて見[（]東^オ
下^向の時^印柿^庵モ^漂泊^一給^ふ草^子政^村ハ^方遠^{カタタカイ}してつい
子^蓮モ文通^ニ木^連きかくのとくの作者^{なり}と^お々^柿義^ア
ア^ト路^通あ^リ理^ア越^人木^因等^ハ劫^アの[（]人^ナ其^義
の[（]人^ハ二^三ちよ^といと[（]候^アト[）]能^護の圓^体ハ^繰猿^ミ
よ終^ス某^類相^續（^アテ[）]年^月の変^化を察^フ一時代^の費^を
簡^シく[（]モ^ハ江^東彦^根の能^護に極^ア某^角が[（]人^ハ其^義
角^ガ手^筋を残^フ一[（]嵐^雪が[（]まも^と嵐^雪が[（]手^筋を残^フ其^義

の
類^の参考^ハ作あるものハ尽ると終りしつか已^シが作意^ハ
尽^ミつれ^ハ讀^ト変^スを諸^ニの能譜^モ某所^ノ宗匠^ノ手^ハ
節^トあり^ハ桃青^ノ血脉相繫^シる^カの^ヲ稀^ニ

一枚記語

蕉門^ノ平節日夜^ヲ減^一ナ^ヒ上^リは^クリ^ハアリ^ハ成^ル
ナ^シム^ト乞^フの^ニ心^ヲか^クナ^シト^シ候^ス愚^ニ老病^良日夜
モ^セぬ^ミお^ハくの日教^ハ一後^代に記請文^ヲ枕^トし
矣^ハ事^ア人^ヲ師匠^モなく流^等も^アリオ^一最^期
初^モ乞^フを^シま^ス人^ヲ呼^フト^シ簡^シヤ^シよ^カけ入^る
今^ノの^時る^ハ人^ヲ取^リこれ^也止^ムる^シト^ナ人^ヲよ^連ひ^時も
十^人の口^ガた^シか^ハ何^を以^テ芭^蕉流^ト決^定せ^むか^ハ
モ^シ代^ト至^ムも^蕉翁^ノ平節口^写と^リハ

筆なり 軽くかりふゆなうれ桺あ流案ニテモ先
匂のちるよとふは正同体を宗とす。なりこれ見聞
なる所を作らす。筆ふくハおやく面白や。生やる
クヤエヨ幽玄のさびほぢへきて人の感する所を
するす。田家の情をいす。曰よ麦を入れたまはつね
なり芋を入れるとさび細となり。中ニヨク合
とふす。あ流の眼ムタリの宗匠達一人もかゝらず
かけ合をよく知る人。日々夜。けえもく。不発。只
何のことを知り。どりや。不能。畢竟も持てつねが
匂あきとて。も先拂ひよか形。一めでぢのうけ
合とふう花よ。あふ。の木をうけ。名曰。三井
寺の門招くる。をうけ。合する。す。ぢの中。うけ合
せよ。き極。もつぎ。めを合せ。く。登。う。す。する。す。り。す。と
手の辞をうけ。合する。も目前。以名人の作也
墨桺の泥。うち。と。の。干。の。桺
沿干。小。墨。桺。の。う。け。名。人。の。作。こ。古。と。つ。は。古
新しき。と。つ。は。筆。なり。新しき。や。形。泥。も。ま。び
べ。て。繼。め。なり。筆。成。芳。こ。ろ。いた。め。て。画

白き物を継ぐするなり先師の句一句すてもうけ合ひな
きたり一而三事ふ動く欲動りぬ知とふるをうけて最
初より案あらざり雲間が陽梢小動き理菊が極子に動
くあぐひりこすのはれ坐と動ク一決意の上にて手介
被意を改き句作るすのなり又お流不すいの諺を
とふる一ちゆうがい(磨)の門人坐を紹ト生一を
ゆの和歌の下を歌の諺とふるゆゆうや
どかき歌仙道の仰きの諺をせすまれハ人のえの
差要見へて自歌とあく一首諺にてともゆぐれほ
リのう一伸とれ侍ると手て非謹ヨリ相違ひと並べ
どものういの諺うとも是なり附予かうとぬゆるき句が
讀うて何うき上り乍り一平柄あきるよハ上平の句小ぢ
ましめんたちのきがい小ねキテるばくを上りとせこの
讀うてウキヤ百忍ひても知りてき地なり涼の聲よ
袖ぬきのこぐりす一而四小連俳を重ひの聲を顯
とす秋季の聲を持とつども登り下りてぬるるお
印秋の聲をのせのあぐひ似こと事みて春の理秋の
跡の題なり先師太根引を題ふすとて太根引と

うるゝと前に出よかきてせまねぢり一生の秀逸題を
桜さくらが柳カキツバタ月雪ムカシハラのあぐりと心得おもひ第だい一キ一本一本はあ流アラフとて発
句くする人ひとが下くだく船運ボウルンの滑習ハクヒョウのかへーことを宋宋とせむ
れ、ばもいぬけいぬけをげげを滑習ハクヒョウ入いるとき所ところより連歌うきうたさせぬ
言ことまつざきを切込きりこもいの川かわをするすのすりくれて
のまのまの別べつ、连歌うきうたを小切こぎれの裏うしろの別べつ、もいの川かわ
有あぬふすりてさくさくく時雨ハマチとよ、俳諧ハイガすす昔むかしの俳言ハイガとよ
みなみれど重じゆみよつざけぬ諱ハラハラ、船ふねもいの川かわ近ちか年
僧そう模もあき人ひとこくりよ切字きりじの発はつが詠うためかきりな
りよく作接さくせつして書きす書く先師せんしの発句はくくは接つと前
後ごよく和なま能謡のうぎの直ただをぬきぬき古いき々いき小こほるるのをやも
井いの一人ひとりなり人のうちうち發は白しら仕接しつとよく知しりてすらも
の、其角そのくに角くに人ひとなりされど商しょうをぬきぬきりやや死死さぬぬすす
仰あおぬみみりりひせせり百韵ひゃくぎの俳諧ハイガをするすすハ大き
古いきくくて下くだ手てなり発はの毛け筋すじハ右うああ人ひとよ極きわる其縫そのあわ
くくくくよきすすいひせせーあるも高中こうこうとすすがが

俳諧抄

いやくす武宗鑑よりニ抄すもいづるの言ふとふね
一通りほりて上へ下り下モヘヤリそれふ少々あ多しと
を付て書せる宗祐の例の板印すゆゆくると申されあるも
是なり眞室どうすゆ時代のすいづを見るに今の
歴く芭川の宗匠達のいひせせるすふさぬで変トモ
きよ／＼剽窃すとぬもせむほう面白ーとくするゆ
ゑやえゆ世ふまいゆハ三合はかせむ七合を肆りゆ
やそれタクノ板見ゆ俳諧ハ格別アリて世の中せま

クレヒトハラドリモナリナリイタリアリナマニの能達ハ他
達の道具一通りありて是よりて人情をぶりとて組合
セキモイアヒトニ言並べテモ先抑タマのもイクレハ人
情平話のよく人ふ通する諱タマ往々みてなきるを核
ノシテモアリテ之の能達の形怪名ト切ちごめニヤ多
物ナリ後代の学者セヨのモイアヒトナリム所を言
フテ夫をめぐらし眼を向キトクシテアリ一とせ芭蕉
庵ナリ三吟モイアヒトナリ

室菊比隣モナリヤツケ方根

許古

室菊につけ方根同季トリ合せナリ

タマヤ一筆ある北窓心の煙

翁

け匂世間煙を雪とする匂ナリ様の一字もいゝれの
讀アリヨリテ達人の手柄と云ハズナリナリトナム人ナキサリ
等用ト見画一舊じの不可思議をナリモナリナリ三嵐蘭
子のこれも教訓案一ヤされ佑モビゼモナリ宿のよ
セモふどヲモナリセ馬と云ふ物ナリナリ千家也候
ルハ先抑ナリシマセ馬と云ふ物ナリナリ千家也候
やト高ト走る三船世ナリ三合のうう也と申モルニキハ

在々なり霄^{アシ}下馬をつれ走^{アシ}イ寄^シトせ申^スと嵐^{アシ}凧^{アシ}
を御^{アシ}ヤ^{アシ}され^{アシ}は志^{アシ}ト^{アシ}身^{アシ}ク^{アシ}身^{アシ}三^{アシ}て^{アシ}候^{アシ}
すりとて

月をふき霄^{アシ}下馬をつきて走^{アシ}て

嵐^{アシ}凧^{アシ}

と先師^{アシ}匂^{アシ}作りや^{アシ}ま^{アシ}く^{アシ}う^{アシ}き^{アシ}人情^{アシ}平話^{アシ}の道具^{アシ}
をり^{アシ}く^{アシ}い^{アシ}う^{アシ}の^{アシ}放^{アシ}格^{アシ}合^{アシ}切^{アシ}リ^{アシ}名^{アシ}セ^{アシ}ゼ^{アシ}ー^{アシ}た^{アシ}る^{アシ}の^{アシ}
知^{アシ}る^{アシ}草^{アシ}後^{アシ}代^{アシ}の^{アシ}人^{アシ}け^{アシ}匂^{アシ}を^{アシ}そく^{アシ}得^{アシ}心^{アシ}す^{アシ}ば^{アシ}猿^{アシ}蓑^{アシ}已^{アシ}後^{アシ}
の四五集明^{アシ}う^{アシ}守^{アシ}明^{アシ}登^{アシ}一^{アシ}ヌ^{アシ}ゆ^{アシ}の^{アシ}い^{アシ}く^{アシ}り

綿^{アシ}と並^{アシ}ぶ多^{アシ}向^{アシ}の里^{アシ}と^{アシ}不服^{アシ}せ^{アシ}る^{アシ}多^{アシ}枯^{アシ}の里^{アシ}

とするウリ^{アシ}三^{アシ}合^{アシ}の^{アシ}うち^{アシ}アリ^{アシ}平話^{アシ}に^{アシ}甚^{アシ}向^{アシ}多^{アシ}と^{アシ}
ハ^{アシ}ふ^{アシ}す^{アシ}まい^{アシ}う^{アシ}か^{アシ}ハ^{アシ}つ^{アシ}ゐ^{アシ}せ^{アシ}す^{アシ}先^{アシ}讀^{アシ}う^{アシ}の^{アシ}一^{アシ}手^{アシ}柄^{アシ}す^{アシ}他^{アシ}
門^{アシ}よ^{アシ}ハ^{アシ}甚^{アシ}向^{アシ}向^{アシ}と^{アシ}ハ^{アシ}是^{アシ}も^{アシ}古^{アシ}と^{アシ}人の^{アシ}い^{アシ}ぬ^{アシ}東^{アシ}向^{アシ}
向^{アシ}新^{アシ}しき成^{アシ}と^{アシ}不^{アシ}通^{アシ}この^{アシ}あぐ^{アシ}ひ^{アシ}無理^{アシ}と^{アシ}正^{アシ}同^{アシ}す^{アシ}ハ^{アシ}
す^{アシ}左^{アシ}後^{アシ}ス^{アシ}ハ^{アシ}わ^{アシ}き^{アシ}も^{アシ}人^{アシ}も^{アシ}面白^{アシ}き^{アシ}所^{アシ}う^{アシ}せ^{アシ}く^{アシ}斯^{アシ}也^{アシ}先^{アシ}師^{アシ}も^{アシ}
ウ^{アシ}の^{アシ}あく^{アシ}し^{アシ}く^{アシ}面白^{アシ}き^{アシ}所^{アシ}う^{アシ}せ^{アシ}く^{アシ}正^{アシ}同^{アシ}す^{アシ}ハ^{アシ}
人^{アシ}アリ^{アシ}其^{アシ}の^{アシ}餘^{アシ}の^{アシ}入^{アシ}室^{アシ}匠^{アシ}達^{アシ}夢^{アシ}わ^{アシ}知^{アシ}ト^{アシ}モ^{アシ}れ^{アシ}ど^{アシ}
サ^{アシ}場^{アシ}ふ^{アシ}實^{アシ}證^{アシ}萬^{アシ}アリ^{アシ}走^{アシ}師^{アシ}オ^{アシ}は^{アシ}り^{アシ}く^{アシ}後^{アシ}の^{アシ}上^{アシ}手^{アシ}よ^{アシ}
成^{アシ}ら^{アシ}る^{アシ}もの^{アシ}百^{アシ}韵^{アシ}の^{アシ}うち^{アシ}半^{アシ}句^{アシ}を^{アシ}聞^{アシ}る^{アシ}や^{アシ}天^{アシ}曉^{アシ}

なり干匂ハ往^タすよてま解^タなり平話のうち成るとな
ぬとをきとくもいゝは成る所をセアテ用ひけ坊
多^タを知^ル事輕^タことちゆふと居るなりむ^ク一^タ坂説教^タと
ミ由平^{ミヒラ}あどかほく^タは^タきどもいの^タ平話と^ミウリ^タト^ミ
殊^タる三十^タハ打越前^タありに付^ミち下^カく前^タの囃^タ
む^ク打越の吟味付^タの囃^タつよくせんさくの^タる世を寺す
今^タ以てサモムク^タト^ミ變^ルぞ^タ山^タの俳諧^タ

奉^ルりの謡^タよ誰^タもこも^タりとふ^タ翁^タせ^タヨ^ミて後^タ

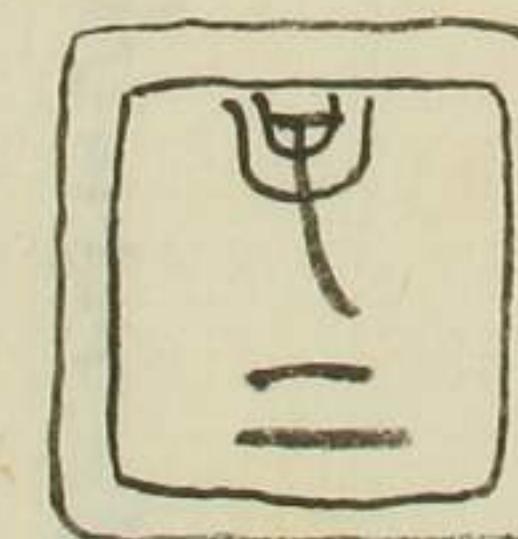
誰^タの^タむハ前^タの囃^タなりと^タや^タヤ^タそれタ^タけ坊^タ翁^タ
大^タ手^タ平^タの一生^タ秀^タ逸^タの匂^タ者^タと^タ文^タ章^タもあさか^タし
く書^タづ^タけ^タ仕^タきどロ^タタ^タ勇^タあ^タで趣^タ意^タが通^タす^タ言^タもつ^タ
き^タ連^タがな^タぐりつぬ^タ決^タ定^タ一^タた^タ所^タす^タ何^タの格^タうの格^タ
彼^タがふ^タハ^タ取^タ嘘^タの^タ想^タア^タ和^タ文^タも^タ格^タア^タゆ^タて^タもの^タの
文章^タも^タ古^タ格^タア^タ申^タる地^タア^タら^タ手^タ短^タふ待^タく廻^タト^タめ^タ
よ^タ事^タを俳^タ諧^タ文章^タの格^タ式^タア^タと先^タ師^タア^タ惜^タ乎^タ相^タ付^タした
タ^タ去^タ來^タア^タ相^タ付^タア^タとて^タ金^タ錢^タをも^タ日^タ暮^タて^タぬ人^タ
をあ^タづ^タか^タす^タゆ^タの^タか^タり^タ傳^タす^タ大^タき^タえ^タサ^タ愚^タ老^タ

が宇陀法師權坐の御堂に於ての秘訣ひくと
書くれよとあるものよりニ事記じきたる所す。能護大秘訣と
云ふ愚老一人よりニ絵ふ二巻の書手稿りあり。先師のまい
の口写を聞く辛韻百韻卷ジラ圓に字相セタクありて退居せ
ばさうも新しく終コシふせよ。せぬもいづを並べ裏アリする所ハの
前マサニき述スルべざびシキところよハ淋シカシと博ヒロく滑智スルのふうし
て面白ココナい才年タレを自由リフにするものハ立タチを井モリ一人ざシテ發勺ハシの
自由リフを厚シメむいの作意シテを立タチ一 文章モノをあくちモ
かくのハ許チ立タチりタリ正風血脉セイフウセツメイのハ人ヒト芭蕉バシオ翁ウム二
代目トドメともにくかシテむタシ時ヒ正徳セイドク中立タチしもシテの秋ヒナ八月十
四日シテ夜ヨメ病床ヨウショウよシテおシテ詠ハシメ之

代目トドメともにくかシテむタシ時ヒ正徳セイドク中立タチしもシテの秋ヒナ八月十

四日シテ夜ヨメ病床ヨウショウよシテおシテ詠ハシメ之

詩也



一時折破席重壺

芬々臭氣供背夫

トキはゆく死ぬるよと

上手シテも死ぬるくえ上手シテり

菊院佛 村期書

先す病席シテよりアリハ月廿日ごろのうつ心シテ発包ハタケ仕様
を伺ひのうシテせられよ多ハシ

あゝ啼ヒヤウや東坡ヒマラヤが葉ハタケよ時ヒメも

東坡ヒマラヤ千株シテの葉白田ハタケシロタを持シテ世シテほるうざシテとせうシテ時ヒメもと
歲シテ旦ヒメのうシテハ年柄シテのよシテて葉ハタケに不シテとシテまほシテのうけ合シテぬ
而シテ所シテよりシテあけ所シテを高シテきシテは発包ハタケハ無シテ尽シテのりシテす
と元シテ一シテ夢シテ共シテふくおりシテこのつさシテの夜夢シテ想シテフ

花シテもれど水シテ極シテると不シテ惜シテある匂シテを得シテなシテ前
の時シテもよ歎シテて脇シテの匂シテあり小シテ至シテ款シテ付シテあり辭シテ世シテ去シテ見

3度きなどのゆづりアリヘキを呼びるに色相^{シキザク}をはぶ
ル^ハ心の及ぶ度^キにあざむ有りとくる

度^キの年^{ウカ}の事^{トコロ}に叶^{ハシマ}リ

度^キの事^{トコロ}に叶^{ハシマ}リ

度^キの事^{トコロ}に叶^{ハシマ}リ

度^キの事^{トコロ}に叶^{ハシマ}リ

五先生を病衰日夜よせぬ^{アリ}ニ^{アリ}の初八月廿日少身
は^{アリ}結ふ世より^{アリ}の死せる時追善の集つゝる^{アリ}し
へ^{アリ}あるアリハ^{アリ}大き^{アリ}先拂^{アリ}是^{アリ}今
追善の集つゝる^{アリ}セモ李由^{アリ}化の時もつく^{アリ}生^{アリ}汝村卒
く^{アリ}折^{アリ}モゼ^{アリ}只^{アリ}下^{アリ}オ^{アリ}之^{アリ}か^{アリ}悼^{アリ}も度^キアリ
伊^{アリ}れ^{アリ}也^{アリ}（追善の集^{アリ}）

千時正僕五乙未秋九月謹書写之

五老井門人
桃葉巷
模斜庵
孟治
越閨天
遠鈴
雲

京寺町二条下ル
第九蓮寺

野田町三條坂

